

二 陸軍関係折衝経緯ノ概況

(一) 鹿屋聯合軍進駐地域及其周辺一帯ノ治安警備ハ進駐軍トノ紛争惹起ノ絶対防止ヲ主眼トシ當初鋒集團之ヲ擔當シ特ニ進駐地域ハ鹿屋海軍警備指揮官ヲシテ海軍保安隊陸軍憲兵ヲ併セ指揮セシムルト共ニ警察側ト緊密ニ協力セシメ以テ治安警備ニ遺憾ナキヲ期セリ

爾後治安情勢ノ良況ニ推移セルニ伴ヒ九月十二日以降鋒集團ノ右任務ヲ解除セラレ更ニ九月下旬ニ入ルヤ憲兵次ヲ保安隊夫々警備ノ任ヲ解除セラルルニ至リ十月以降治安警備ニ関シ其悉ク警察側ノ手ニ移行セシメラルコトナレリ

(二) 聯合軍ハ進駐ニ際シ特ニ其ノ進駐地域ニ於タル我が方ノ無武装化並ニ進駐地域周辺ニ於テ我が敵備撤收ノ状態ニ對シ関心極メテ大ナルモノアリシカ本件ニ関シハ左記ノ如ク我が方ヨリ

積極的ニ情報ヲ提示スルト夫レ進駐軍側ノ危惧ニ基キ申入レ要求等ニ對シハ即時善處ノ手段ヲ採リ逐一其ノ杞憂ヲ一掃セシメ何等難題ヲ生起スコトナク現在ニ及ヘリ

左記

1. 進駐軍先遣隊ニ對シ鹿屋地区及其周辺地域ノ軍隊ノ戰備撤收ノ状況並ニ治安ノ現況ト之カ樂觀的見込ニ関シ説明

右説明ニ基ク先遣隊ノ希望ニヨリ進駐地域ニ於テ我が警備部隊ニ彈藥ヲ携行セシメハコトト決定セリ

2. 九月十三日進駐軍ヲ申入レヨリ進駐地域内ノ小火器類及同彈藥一切ヲ聯合軍側ニ正式ニ引渡スコトニ決定シ約十日間ニ亘リ之ヲ完了ス

3. 九月十五日進駐地域内ノ名主附近ニ於テ我が遺棄彈藥及彈藥ノ處理ニ関シ我が方ヨリ危害防止上ノ好意的見込ニ基キ

積極的之情報ヲ提供シ快諾セシム

(三) 鹿屋進駐軍、其進駐地域外ニ於テ我ガ兵器、彈藥類ノ全面的引渡シニ関シテハ之ヲ權限外トシ又其ノ引渡シ要領等ニ関スル何等ノ情報ヲ提示シテラサルトコロ九月下旬ニ入り我ガ監視保管中ノ兵器集積所ニ對シ一部兵器ノ不法引渡シ強要事件散発スルニ至リ我ガ方ヨリ事由ヲ具シ之ガ善處方要望セシ結果進駐軍側責任者ハ痛ク遺憾ノ意ヲ表シ此種事件ノ再發防止ヲメ嚴重取締リノ處置ヲ講スルト共ニ一部ノ特定兵器(拳銃同彈藥、軍刀、眼鏡)ヲ豫メ正式ニ引渡シ又措置ヲ採ルル事ナリ尚志布志灣岸ニ於テ引渡用兵器、彈藥類ノ風水害後ニ於ケル手入作業ヲ九月末ヨリ約一週間我ガ兵力ヲ以テ實施スル旨通告セルトコ進駐軍側之ヲ好意ヲ以テ承諾セリ

四 土木関係

九月九日聯合軍ヨリ左記ノ要求アリシ

(一) 鹿屋古江間(十軒)古江高須間(八軒)高須飛行場間(五九軒)

道路補修ヲナスコト

之ニ対シ工法ハ鹿屋古江間ハアスマルト道路ニテ不取散土砂ニテ補修シアスマルトヲ以テ本格的補修ヲナシ其他ハ砂利道ナルヲ以テ碎石土ヲ入レ補修ス

(二) 高須海岸ニ橋樑新設ノ要求アリ之ニ対シ水深四呎(満潮時)トシ形状ハ前巾三〇呎後巾五〇呎長三三呎ハ橋形トシ取付道路ヲ設ク右工事ハ兵ニ直テニ着手進捗中ナリ

水道工事ハ進駐直後ヨリ必要箇所ノ修理又ハ新設ヲ要求ガレ時々施行中ナリ

電気工事モ右同様ノ状況ニシテ目下施行中ナリ

建築工事ハ一部宿舎ノ修理アルニ目下ハ總火工ヲ供給シ直接聯合軍ニテ工事スル程度ナリ

五 勞務供給概況

(一) 米軍側ノ申入レニ依リ勞務ノコトニ関シテハ一切クアライク
少佐ヲ通シタルモノノ外受諾セザル事

(二) 進駐以來ノ勞務要求數ハ別表ノ通ニシテ之カ供出ハ地元
鹿屋市及近接町村並ニ近接贈答郡内各町村長ニ勞務
供出ヲ要請シ五日乃至二十日ヲ期限トシテ十數名
又ハ數十名ツ、ノ動員ヲ受ケ米軍ノ要求ニ副ヒツ、
アリ

(三) 大工ハ縣警察部勞政課ヨリ縣下各警察署單位ニ組織
セラレアル勞務報國會支部ニ指令シ動員ヲ受ケ居リ
四之等ノ宿舎ハ鹿屋市海軍省管下下各海軍省管下ニ在リ海軍使用ノ空家ニ
合宿セシメ炊事ハ勞務係監督ノ下ニ勞務者ヲシテ
之ニ當ラシメ無償給與ヲ續ケテ來レルガ十月一日

ヨリ請員制度ニ改メ食費一日ニ円ヲ徴シツ、在リ

(四) 現状ヲ以テ勞務供出ヲ今後長期繼續スル事ハ相當
困難ノ情況ニ立至ルコト必然ト思料セラル、ヲ以
テ早目ニ常備勞務者ニ轉換セシムルノ要切ナルモノ
アリ

(五) 現在鹿屋市ヲ掌握セル常備ノ半島人勞務者及別
個ニ飯場ヲ育スル半島人勞務者並ニ宿舎ニ收容
セル邦人勞務者約十八名計三百名位アルモ半島人勞
務ハ稼働率悪ク毎日ノ供出數量ニ差異ヲ生スルコ
トアリ尚半島人勞務者ハ中途逃ケ帰ル者等アリテ
其ノ都度米軍ヨリ逃ケサル様注意方ノ申入アル狀
況ナリ

(六) 其ノ際直ニ邦人勞務ヲ以テ全部ノ要求ヲ充タヌコトハ

期	至前				要	求	出	供	數
	十月一日	至廿一日	至卅一日	至十四日					
人夫	七五〇	九三〇	一三〇〇	一〇五〇	六〇	一〇	七〇五	六四〇	三
大工		六〇	六〇	一〇五				六四	
硝子工		一五	一五						三
水道工			一〇						一
電工			一〇						
人夫	七〇五	九三〇	一三〇〇	一〇五〇			七〇五	六四〇	三
大工		六〇	六〇	一〇五				六四	
硝子工		一五	一五						三
水道工			一〇						一
電工			一〇						

勞務者供出狀況調

(十月一日調)

最モ肝要ノコトニ思料セラル、モ現在ニ於テハ希望者稀
 テ僅少ナル為切換不可能ノ狀況ナリ
 (八)自動車事故發生
 九月二十五日午前五時五十分頃古江道路高橋ニ於テ勞
 務者迎ヘニ行キタル自動車轉覆シ死者三名重傷
 十八名共、他輕傷四十二名ヲ出セル事故發生、委眞
 會トシテハ死者ニ對シ香典料壹百円葬祭料二百円
 家族扶助料(日給四百日分)特別慰籍料扶養家族一名
 ニ對シ參百円ノ割ヲ以テ夫々支出贈呈セラレタリ、
 重傷者ハ保安隊病院ニ入院目下治療中保安隊部隊
 ニ依リ縣ヨリ医師着護婦派遣セラレアリ

六 資材供給經過概要

現在マテ當係ニ於テ聯合軍へ供給シタル資材ノ大部分ハ建築用資材並電氣設備用資材ニシテ概要次ノ如シ

- (一) 電氣設備用品トシテ聯合軍側ヨリ要求アリタルハ各種電線硝子碍管スルヲ類ソケツト類及電球等ニシテ右ハ何レニ當地区内販賣業者ノ手持品皆無ナリシニ依リ九州配電會社ト折衝ノ上九月八日ヨリ十九日ニ直リ要求數量ヲ調達納入シ尚不足セル分ハ軍良航空隊ヨリ接受シタルモノヲ以テ補足シ供給一應完了シタリ
- (二) 建築用硝子板及ペンキハ地区内建築請負業者ノ手持ノモノヨリ硝子板四一箱ヘンキ六缶ヲ納入シタリ
- (三) 屋根葺用波形スレート約三〇〇枚ヲパテ五缶ニ關シテハ軍部ヨリ接受ノ上鹿児島市ニ集積中ノモノヨリ供給スル

コトトシテカ輸送ニ付テハ鹿児島市ヨリ古江港迄機帆船古江港ヨリ納入先迄ハトラックニ依ルコト、シ第一便トシテセロ。

- 故ハ十月一日古江港着荷十月二日之カ陸場納入ヲ完了シタリ
- (四) 聯合軍所要ノ木材ニ付テハ豫々L R マツゴワント賀嶋連絡委員ト入手方法製材工場能力等ニ付打合せヲナシ木材ノ入手ニ関シテハ連絡委員會ヲ經テ木材會社ヨリ入手スルコトト定メタルニ其ノ後聯合軍ノ拙速主義ニ依リ製材工場ニ於ケル在荷ノ出来合品ニシテ適確品ハ直接軍ノトラックニ依リ運搬納入ノ方法ヲ取リタル為取引ニ支障ヲ来セルヲ以テ聯合軍マツゴワン火尉ト連絡原則トシテ連絡委員ヨリ經テ木材會社ニ發駐スルコトトシ現在製材工場並工場ニ在荷ノ出来合ノ製品及素材ニテ軍ノ要求スルモノニ付テハ軍ニ於テ直接會社ト折衝ノ上現品ノ受

授了シ會社ニ於テ正副ニ通シ出荷書ヲ作製正ヲ單ニ
副ヲ委員會ニ提出單ハ右ニ依リ領收證ヲ委員會ニ送付
スルコトセリ現在統合軍ノ入手セル木材ニシテ直
接製材工場ヨリ納入ハ分次ノ如シ

板類	三四四五石
角物類	九三四石
計	四三九九石

委員會ヲ經テ木材會社ニ發注セル分ハ板(五分)ニ〇〇〇
平方尺、敷居(二吋×四吋×十四呎)五〇〇〇。本ニシテ製材工場ノ
瓦害ニ依ル能力低下資材關係ヲ考慮ノ上ニ應^付三日迄板
八〇〇平方尺敷居三〇〇〇。本ヲ納入スルコトヲ約束
シ現在次ノ通り納入セリ板八四四〇平方尺敷居七一三
木他ニ直接施設部及個人ヨリ入手セルモノ相當量下

ル見込ナルモ現在正確ナル數量判明トス

尙當地方ニ於ケル現在ノ木材ハ戰前ニ於ケル空襲關係
ニ依リ勞務輸送ノ不如意ニ依リ各製材工場ハ素材及製
品殆ントナク今後ノ軍ノ要求ニ應シ製材シ製品ヲ納
入スル見込ニシテ原木ノ入荷ニ付テハ當委員會トシテ
及米軍ノ好意ニ依リトシテ數台應撥ニ依リ急場ヲ凌キ
ツ、アル状態ナリ

先般當地区ヲ襲ヘル暴風ニ依リ大部分ノ製材工場ハ
破壊シ破損セザルモノハ送電不可能ノ為操業出来ス
僅カ蕨屋第ニ製材工場ノ操業ニ依リ辛シテ軍ノ要求
ヲ充タシツ、アリ送電復旧ノ場合ト雖モ操業可能ノ
工場セテ所一五五馬力程度ニ過ギズ原木ノ生産ニ関シ
ニハ今後會社及森林組合ニ極力努力ス可ク地方事務所

二連絡セリ

函 聯合軍將兵ニ計スル土産品(紀念品)販賣所ニ関シテハ
 聯合軍ノ要求ニヨリ業者ヲシテ飛行場内ニ一箇所ヲ設置ス
 ルコト、シ目下縣商工課ニテ販賣品見本蒐集中ニシテ
 近ク具體的ニ進捗セシムル手筈ナリ
 尚市内市街地区ニ販賣店開業希望者ニ、ミアルモノ、如ク之等
 ハ彼我摩摺防止ヨリ見ルモ適當ナルモノト認メラル、ヲ以テ
 特別ノ支障ナキ限、之ヲ承認スレ方針ニシテ博多ハ一業者
 ハ既ニ店輔ノ選定ヲ完了シ近日開店ノ見込ナリ

七 通譯事務概況 (十月一日現在)
通譯員之數 一三四

內 譯

中等學校教員	一八
專門學校教員	一
外國在留者	六〇
學生	七
其他	四八

備考

一 學歷 內地專門學校以上卒業者 四九 外中卒業生
二 縣內 一〇六 縣外 二八

(二) 動態

實動

八五 (最近二週間七〇名乃至八三四名)

賜暇歸省者 四二 火急ニ出動セシメテ為家事上歸省スルモノ
九月中旬、風害、為賜暇歸省

但シ漸次歸任シツクアリ

復歸者

七

九州總監府ヨリ北九州進駐ノ聯合軍、為他縣人

ハ復歸セシメト、電報ニヨリ縣外者二八名中七名

復歸確定、去就不明十五名 (内歸省中者十二名)

發留希望六名

(三) 需給狀況

一日ノ出動要員ハ現在凡十名程度ニシテ要請ニ対スル員數ハ充分充足セシムアリ

(四) 通譯員、身分

九月二十日迄ハ鹿屋連絡委員會會場託
九月二十日以後臨時外務省事務場託

十月一日以降正式ニ恒久的常任性ノ嘱託トシテ委任待遇ノ判任待遇
過雇員、臨時嘱託等、身分確定ノ見込

(五) 報酬

九月二十日以前日給拾五円均一 食費官給
九月二十日以後十月三十一日給五円乃至拾円 諸手当等合
算シテ月百五拾円乃至四百五拾円位トナル見込
十一月以後、百円乃至貳百五拾円、月俸トシテ諸手当合算百五
拾円乃至四百五拾円トナル見込
但十月以降食費月七拾五円ノ自辨(合宿舎提供)

(六) 所見

入選ニ就キテハ火急ノ場合故不適確者モ相當見受ケラレタレド
今後ハ次ノ諸点ヲ特ニ考慮致シ度
1. ショクトモ中等學校以上ノ學歷教養アル人物

2. 英米等英語、國語ト為メ外國ニ在留シ常務アル人物
3. 英二項ニ準シ貿易商其他海員等外國人ニ接セル經驗ヲ有
スル者

4. ショクトモ三月以上滞在シ得ルモノ

5. 身元調査ヲ充分ニシ業行正シキ人物ノ選定

6. 簡易ナルテスト及人物健康等ニシテ診斷スルコト

第一項ヨリ第五項マデハ警務部ニ於テ特ニ留意シテ之ヲ推薦
シ更ニ通達者名簿ヲ別ニ作製シテ甲乙丙トシ將來ノ急ニ備ヘ
置ク事

備考

1. 上記員數中永續通譯官希望者、凡參拾名故當分相當人物
ノ推薦派遣方、必要ヲ認ム 人員凡四拾名位
2. 合宿舎通勤ハ任意ナリ

ハ 輸送事務概況
 一 進駐當時、狀況

九月三日鹿屋進駐軍到着ヨリ九月十日ニ至ル十日間ノ輸送事務ハ委員
 會管理ニ下シ陸軍並海軍ニ於テ之ヲ担当シマリ此ノ間ニ於ケル進駐
 軍、要求ハ毎日概不四十車輛内外ニシテ車輛、差出ハ陸軍側ニ於テ
 其ノ半数海軍側ニ於テ残り半数ヲ担任シマリタル模様ナリ
 海軍側差出、車輛ハ殆ンド總監府召集ノ民間車輛(熊本宮崎
 鹿兒島)ニシテ其ノ管理、監督ハ海軍ニ於テ之ヲナシマアリ
 事務引継^{備前}狀況

九月十日海軍並陸軍側ヨリ車輛其他事務引継了了シ翌
 十三日ヨリ現在、輸送部ニ於テ總テノ事務運営ヲ開始セリ
 出向時進駐軍、要求スル車輛數ハ毎日概不二十九輛(別ニ十輛
 ハ陸軍ヨリ直接進駐軍引渡シタルモノ)以内ナリガ實質動車激減ノ

為之ガ差出配車ハ極大困難ナル狀況ニ陥リ

當時、車輛狀況(貸物自動車)

計	陸軍		海軍		總計	
	可用車輛數	貸物自動車	可用車輛數	貸物自動車	可用車輛數	貸物自動車
陸軍	一	三	一	二	二	三
海軍	一	二	一	二	二	三
總計	二	五	二	四	四	六

實質動車激減ノ理由

一 車輛、使用狀況ノ限度ヲ超シテ酷ニ失シ手入並小修理ヲ施ス餘裕
 ナク為ニ故障車續出セルコト
 即チ毎朝五時ヨリ勞務者輸送ニ當リ引續キ進駐軍飛行場ニ

於テ修日老般ノ作業ヲ連續午後七時ノ引揚ゲタルモ更ニ夜間作業ニ從事スル車輛モアリテ其ノ使用酷ニ失レテ手入小修理ノ余裕サヘナキ狀況ナリ

(二) 修理工場ノ設備ニ至急自働車部品等ノ施設ナシ車輛ノ使用酷ニ失レ故障車續出セルモ急遽ニ之ヲ整備スルハ工場工具・部品・要員等ノ施設ナク運轉員ニ於テ漸ク小修理ヲ能ハス程度ナリ

(三) 陸軍並海軍ヨリ車輛數ハ三十八受領セルモ老朽車多ク直チニ使用シ得レザル實動車ハ僅力數台ニ過キサリシコト殊ニ陸軍部隊ノ引揚輸送ニ優秀車ヲ使用シ委員會引渡ノ車輛ハ老朽車多ク而モ半數以上ハ軍専用、テイセル車ニテ修理不可能ナリ

(四) 總監府召集ノ民間車輛ハ一般的ニ老朽車多シ

鉄上ノ事由ニ依リ實動車ハ逐日遞減ノ狀況ニマリ而モ進駐軍ノ要求ハ冷嚴ニシテ其ノ要數ハ絶対確保ノ要アリ然レニ實動車ハ進駐軍ノ要求スラ充レ能ハス更ニ委員會直接ノ作業(未作業糧食運搬・彈藥輸送)ニ最ク限七台ヲ必要トシ之等ノ配車ニ苦心慘勝ノ狀況ヲ極メタリ斯ノ如ク配車部面ニ於テモ將來ノ憂慮サレ進駐軍トノ間ニ大問題ヲ惹起スルノ慮レアリ又運轉員ニ於テモ毎朝未明ヨリ終日作業ヲ續キ更ニ夜間作業ヲ連續スル等其ノ勤勞過激ナルト一面言語不通進駐軍ニ對シ不慣レノ恐怖感ヨリ無所適走スル者等アリテ一般的ニ從業ヲ嫌忌シテ動遙ノ徵候ヲ示シ輸送事務ノ運營ハ物人共ニ難ク極メ之ガ緊急対策ヲ講ズルニ非ザレバ旬日ヲ出ズルニ重大事ヲ惹起セルノ慮レアリタルヲ以テ差當リ當面ノ對策トシテ次ノ諸点ヲ計画シ之ガ急速ニ實現ニ努メタリ

第一 自動車修理工場ノ設置

- 第一 整備要員、確保
- 第二 自動車部、確保
- 第三 自動車、増加(新規)
- 第四 進駐軍要車車輛、飛行場常置
- 第五 進駐軍要車車輛、飛行場常置
- 第六 進駐軍要車車輛、飛行場常置
- 第七 進駐軍要車車輛、飛行場常置

三 対策、實施

(一) 進駐軍要車車輛、飛行場常置並自動車修理工場、設置
 從來進駐軍、要車車輛、毎朝當日、所要台数を取揃(飛行場指定、位置を差出せる)が途中に事故、発生(作業難忘)等運転員(時の逃避)又、勞務者輸送、為指定時刻に遅延等所要台数を確保する困難極大為之進駐軍、混雑を根柢不信、原因を作り感情悪化の傾向あり

進駐軍、要求する所要車輛を完全掌握するに當り於て
 七 態勢変更、必要を認め所要車輛、飛行場常置の方に出
 八 進駐軍に於て當方の誠意を了察せしめ、如く本問題に付
 却つて先方より一步進め正式に申し受たり
 即々其、内容ハ

- (一) 飛行場内、適當、位置を決定し車輛置場並修理工場を設
置ス(キ建物)を提供スル
- (二) 所要車輛(車輛)ハ右指定、位置に常置し運轉者ハ通勤セ
ル

(三) 自動車修理工場並車輛、整備配車運送ハ責任ヲ以テ
 委員會が之ニ當ル

敘上、要車ハ當方ニ於テモ希望スル処ナラシテ双方合議上直ぐ之
 が實行ニ着手セリ

修理工場ニ充ツルキ建物ハ十七日、暴風ヨリ倒壊セルヲ以テ更ニ別
ニ建物ヲ選ビ諸施設ヲ進メルガ建物補修ニ要スル資材勞務一
切ハ進駐軍ヨリ差出ラ受ケ當方監督ト下ニ速ニ完成シ更ニ水道
電燈施設等總テ進駐軍側ニ差出ニ依リ完備ヲ見タリ

而シテ本工場ニ三州自動車工場ノ一部ヲ移転セルメ技術員職
工長以下十名ヲ以テ作業ヲ開始シ同時ニ所要車輛二十五台
ヲ飛行場ニ移シ之ヲ常置セルメ更ニ連絡係員トシテ警備官
ニ名通譯ニ名ヲ常時着直監視ニ當ラシメ円滑ニ運轉
見シ至レリ

(二)進駐軍要求車輛ノ問題

實動車遞減之ニ對シテ整備施設ノ併ハサル狀況下ニテ
進駐軍要求車輛數増加スルニ於テハ到底円滑ニ運轉スル望
メサレ勿論誤解不信ヲ招来スル原因トナリ當方ノ實情

苦心ノ狀況ヲ其儘ニ進駐軍ニ示シテ解ヲ得ルニ必要アリ而シテ
要求車輛ノ減下ヲ因ル當面ノ緊急問題ナリテ以テ進駐
軍輸送責任者アオスホシ大尉並ニ中尉ト再三接談
シ當方ノ實情ヲ有懇ニ述ベ車輛ノ現状ヲ視察セル等認
識ヲ深メタル結果相當ノ解ヲ得ル処アリテ當初ニ見タル冷
嚴ナル要求モ漸次緩和セシ感情的ニ好感ヲ抱クニ至レリ

飛行場常置ノ要求車輛ハ最初優秀車三十輛ナリシガ之ヲ
二十五輛ニ減下更ニ二十五輛中ニ故障車三輛ヲ加ヘ差支ヘナキ
承認ヲ得結句實動車二十二輛ヲ以テ解決セリ

而シテ飛行場修理工場ノ定数ト同時ニ前記車輛二十五ト運
転員三表(予備員五)ヲ取揃ヘ差出レタルガ本事業ノ速カク
ル定リニ依リ一層好感ヲ深メ右車輛ノ消費スル燃料油脂等
自給的ニ進駐軍保有ノヲ提供サレタリ尚現在ノ差出車輛二十五

以上今後要ホセサル約束ナリ

(三)整備要員ノ確保

飛行場常置車輛ニ対シ修理整備ハ三州工場ノ一部移転ニ依リ一應解決ヲ見タルガ發存車輛整備亦急務ナルヲ以テ鹿兒島ヨリ整備技術員十三名ヲ招致シ修理工場ヲ設ケ着々車輛整備ニ當ラシメマツアリコノ結果好成績ヲ舉ゲ發存車輛モ最近十五輛以上ノ實動車ヲ得委員會直接ノ作業ニ當ラシメマツアリ

(四)自動車部留ノ確保

故障車ノ増加ニ伴ヒ之ガ修理整備ニ絶対必要ナル部留ノ確保ニ付イテハ莫クニ空廠補給科ニ接洽シ相當量ヲ確保シ得タルガ更ラニ不足ノ分ハ三州工場其他ヨリ斡旋獲得ノ見込ナリ

(五)實動車ノ新規増加

事務引継當時ハ實動車不足ノ運送困難ニ陥ル虞シマリタルヲ以テ更ニ鹿兒島縣ヨリ十輛追加差出方ヲ手配ナシタルガ修理工場ノ設置ニ伴ヒ車輛整備順調ニ進行シ又進駐軍要車車輛モ減下シタル關係上現在ノ保有車輛ニテ充足シ得ル状態ニ至リタルヲ以テ新規増加ハ一應中止シ特ニ必要ナル場合ハ鹿屋合同トラクワヨリ應援ヲ求ムコトナセリ

(六)運転員ニ對シ精神教養

運転員ハ鹿兒島熊本宮崎ノ三縣下ヨリ集リ各ノ所屬會社モ異ル關係上統一ヲ欠キ而モ毎日ノ作業ハ激務ニシテ進駐軍關係ノ作業ヲ嫌忌シ無断逃走者ヲ出ス等相當動盪ノ氣配アリタルガ運転員ノ精神教養ハ輸送事務運営ノ根本問題ナルヲ以テ凡ラセル機會ヲ利用シテ之ガ教養ニ努メタリ 即チ各縣ニ班編成ヲ以テ三縣ニテ班

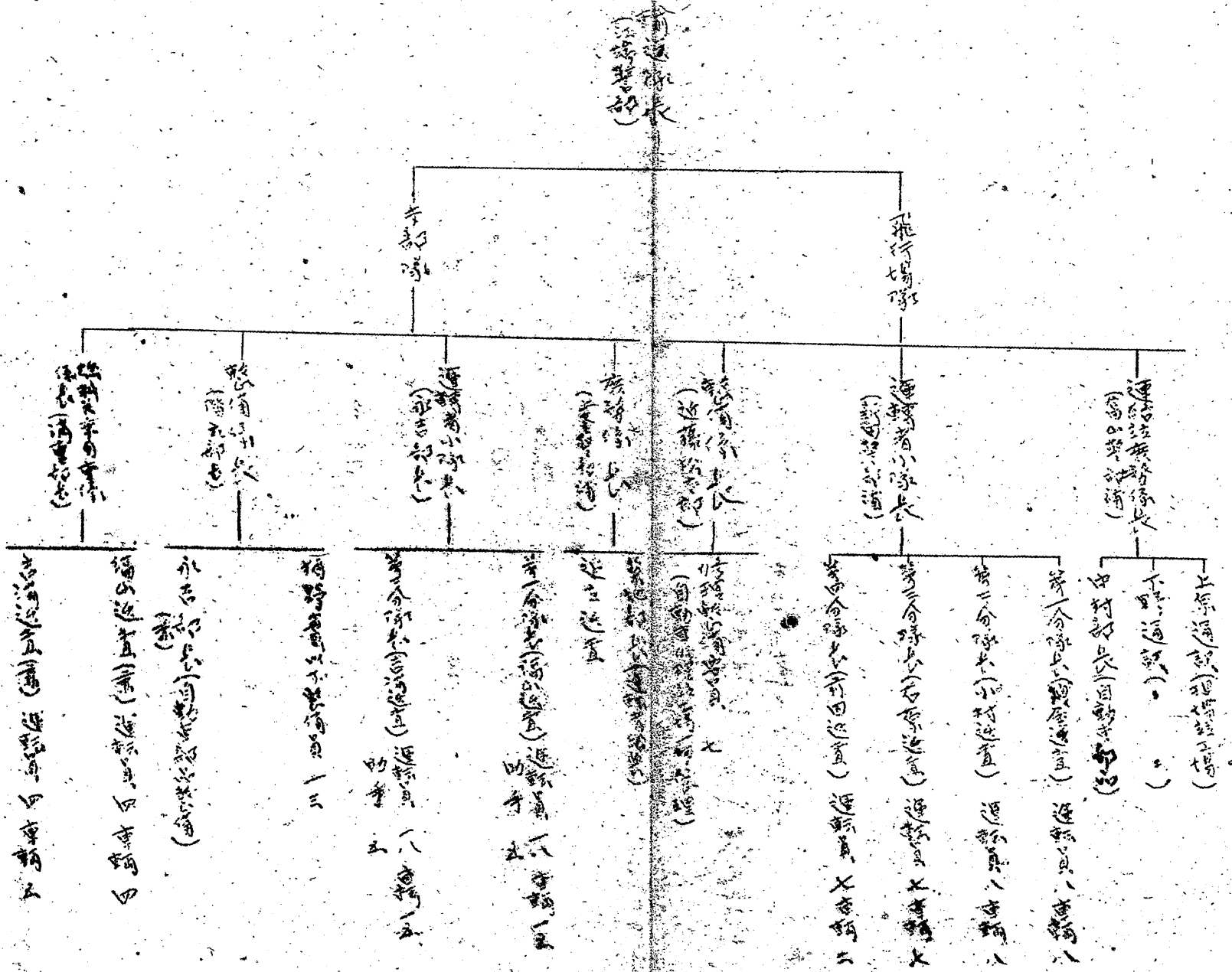
ヲ編成レ毎夜班長會議ヲ開催シテ注意指示ヲ與人更ニ適當ナル
機會ヲホク運輸員ニ精神教養ヲ施ス等一段ノ努力ヲ注キ
ル結果相當ノ效果ヲ收メタリ

(四) 結語

對進駐軍輸送事務ハ前述ノ通り飛行場指定ノ位置ニ要
求車輛ニ五ヲ差出シテ常置シテ使用サレタリ
此ノ内故障數台以上ニ及ブトアルモ別ニ車輛増加ノ要求ヲ受ケ
タル下ナラ故障車ハ速カニ修理工場ニ於テ救済セシメタリ
テ現在ノ狀況ハ極メテ円滑ナル運送ヲ見ツタリ輸送段ノ編成
ハ別表ニ示ス如ク飛行場流ト本部隊ニ分ケ各分組ヲ定メテ作
業ノ進捗ヲ因リソノマルガ大体軌道ニ乘リソノマルト認メラル
更ニ内部的問題トシテ民間表出車輛ニ對シテ補償費及運輸者
手當ノ決定今後ノ冬季ノ如何スルヤノ問題アルガ是等ノ一切

ハ鹿児島縣實物自動車運送事業組合ヲシテ一括運送ニ當
テシテ之ヲ針 樹ニ目トシテ準備ヲ進メタリ

運輸委員會輸送隊編成表



九 衛生ニ関スル連絡經過概要

(一) 聯合軍鹿屋進駐直後アーム中佐、訪問ヲ受ケ左記事項、質問アリタリ

イ 傳染病、流行狀況及其菌型

ロ 當地方、風土病、概要

ハ 疾病ヲ媒介スル昆虫、發生並ニ分布狀況

ニ 花柳病、蔓延狀況及慰安婦、實況

ホ 上水道、設備水質等

ヘ 下水道、設備、有無及良否

ト 供給シ得ヘキ水、數量

チ 屎尿、処理方法及腸内寄生虫、罹患率

リ 當地方ニ於ケル一般環境衛生(衣食住)

又日本ニ於ケル恙虫病、著明ナル研究者及其勤務所

以上ニ對シテハ各々詳細ナル回答ヲナセリ

(二) 聯合軍アーム中佐ヨリ、要求ニ依リ左記物品ヲ提供セリ

イ 顯微鏡 一台

ロ 暗視野装置 一台

ハ ギムサー氏液 一

ニ 硫酸マグネシア 約七五。九

尚又線装置提供、申入アリタルニ當地ニ現品無キ由ヲ通シタル處

ヲ承セリ外ニ顯微鏡ニ台移動器械台一個ハ光方ニ於テ

準備整ヒタルヲ以テ申入レヲ取消シ来レリ

(三) 慰安婦、檢診問題

イ 鹿屋市青木町ノ遊廓ヲ聯合軍專用、慰安所トシ慰安婦

二十數名ニ就イテハ鳴託医種子田医師ヲシテ五日毎ニ檢診ヲ

實施セシメ一方聯合軍ニ於テハ兵員ニ對シ洗滌處置ヲナシ

ツ、アリ今後尚一層嚴重ニ檢診ヲ勵行スルヤウ申入レアリタリ
口慰安所移転ニ就イテ内意アリ研究中ナリ
ハ密娼ノ檢懲ニ就イテハ考慮中ナリ

(四) 傳染病發生ノ報告

進駐地域ニ於テハ傳染病發生狀況ニ就イテハ隨時聯合軍側ニ
報告ヲスルト共ニ医師團及所村警奉當局ヲ督勵シ傳染病
ノ防圧届出ノ勵行ニ努メテアリ

(五) 聯合軍ハ一般ニ當方ノ處置ニ信頼シアリ

連絡員ハ松尾海軍之臣大佐、永井少佐担当セルニ九月二十九日未
交代ス

米軍ノ要求事項(食糧関係)

一 水 進駐當時水供給可能量ヲ照會アリタルニ依
 リ高須所在ニ和歌粉會社ノ製水能力一日六吨ニシ
 テ民需約四吨ヲ差引キ毎日約二吨程度ノ供給ヲ十
 シ得ルコトヲ委員會ヨリ回答セリ
 才スホニ大尉ハ前記製水所ニ委員ト共ニ實地檢分
 ニ赴キ水力カターピン(現在四十五馬力一基)及淨水設備ヲ
 視テ一日ノ製水能力十吨以上トシ米軍ニ於テ其ノ
 製水ヲ使用スルコトヲ同會社ト假契約ヲナシテ
 租シ一般民需ニシテ一日四吨程度ハ供給スルノミナ
 ラス當時ニ夫レ以上ヲ必要トスル場合モ可成供給ス
 ルコト下セリ
 二 蔬菜供給量如何ノ照會アリタルニ依リ委員會ハ茄子

百担甘藷ヲ毎日一屯位供給スル旨回答セリ

三 牛肉供給量如何ノ照會ニ對シ毎日三百斤ノ供給ス
 ル旨回答セリ

四 製粉鶏卵ノ照會ニ對シハ前分不可能ナリト由入シテ
 リシニ其ノ後廣瀬市長ヲ於テ個人的ニ米軍將校ノ一
 部ノ者ニ贈物トシテ鶏卵百個及野鷲五羽ヲ與ヘ
 タル為前記委員會ノ申入ガ虚構ナル申入ノ如ク察
 ラルコトト成ルヲ以テ委員會ハ更ニ市役所ト打
 合セ、上一週間ニ卯百個(週十一月以降ニ百個)鶏三十羽
 ヲ供給シ得ル事ヲ申入レタリ

五 ビトル 農林省土墾事務官ヲ通シ九月十三日米國
 置政部 キヤップテネン島ヨリ二三五函(五打入)ノ要求
 アリタルニ依リ供給方應諾シ九州總監村加藤

參事官、韓旋ニテ當連絡亦負會宛ニ車十一六五函ノ送
 付ヲ受ケタリ然レニ九月二十三日ハ十本ヲ供給スル様米
 軍ヨリ変更要求アリタルニ依リ九月二十五日八本不足
 ヲ供給セリ十月四日米軍ヨリ每週一萬五千本ヲ供給可
 能ナリヤト照會アリタルニ對シ豫テヨリ九州總監府
 ノ調査ニ依リ每週五万本(米軍人員三五〇〇名一月一人當
 ニ本)ヲ福岡、竹下及門司ノ工場ニテ供給能力アルコト
 ノ通報ニ接シ居リ其輸送力ニ付目下官崎管理部ニ照
 會由ナリ依リテ未ダ前記照會ニ對シテハ未回答ナリ
 (六)食糧價格ニ関スル米軍ヨリ照會
 十月二十日ハンセルト大尉ヨリ食糧ノ價格ニ付八月十五日
 現在北照會セラレタルヲ以テ肝島地方事務所經濟係
 ニ調査方ヲ依頼セリ、公定協定價格及現下ノ適リ相

場ヲ調査ノ上十月九日関係機関係員ノ協議ヲ經テ十月十
 日米軍ニ回答スル見込ナリ
 (七)十月三日ノ注問品

牛肉 三〇〇封(三六貫三百双) 十月六日屠殺日
 甘藷 二〇〇封(二四貫二百双) 市農業者兼荷清
 鶏卵 七〇〇個 某荷困難ナルニ依リ出来得
 止限リノ努力ヲ拂フ事

右三品種ヲ十月七日夕刻(四時)見込ニ供給スル事ヲ
 申入レタリ

八月十六日ノ要求
 魚落花生桶ノ供給量如何ノ照會アリタルニ依リ前項
 中ト同様ノ取計ヲナスニトテ回答セリ
 (九)ビール空瓶

十日ヨリ米軍ニ於テ空瓶二千本ヲ保有スルヲ以テ其ノ引取
方ヲ要求セラルタルニ依リ十月六日ヨリ販賣會社荷扱
人宮崎商店ヨリ引取ラシムル様手配セリ
中連絡委員會關係食糧事情

九月三日及四日、米軍進駐ニ依リ關係各省九州總監府
軍部係員及縣廳係員ヲ以テ連絡委員會ヲ組織サレ
タルニ其人八員ハ次如キ數ニ達シタリ

- 委員 委員附 其他附屬人員 一五〇名
- 通訊 海軍 一三名
- 總監府轉送 八〇名
- 通信員 海軍 四〇名
- 通信院 二三名
- 保安隊 一六五名

警備隊
 遷轉員 宮崎 三八名
 熊本 三二名
 鹿兒島 三五名
 〓 一〇五名

勞務者
 合宿者 四六名
 兼勞務者 二二名
 〓 六七三名

合計 三〇八三名

右人員ハ轉出證明ヲ持テスルコト困難ナル實情ニ在
 リシ為一般配給ヲ受ケル事能ハス保安隊ノ食糧(十月
 迄)食糧ヲ確保シアリソリニ依存スルノ止ムナキ情
 態ナリテ然ルニ保安隊ハ九月末ニ解除サレ十月一日ヨ
 リ連絡委員會ニ於テ元水交社事務長河合氏ノ請
 員ニテ烹炊ヲ開始セリ、勞務者ハ九月十一日ヨリ下谷

宿泊所(四六〇名)ノ烹炊ヲ開始シタリ
十月現在給食人員

委員會事務所 七五名 米三合 廿五升七〇分
通譯 一二九名 米三合 七〇分

警備隊(員) 三〇名 警察署ヲ於テ給食ス
運轉員(運轉手九八) 一一一名 米四合 一四〇分

勞務者 計 四七六名 米四合 一四〇分
二〇九名(三食給與)

市内供出勞務者 四三〇名(二日ニ合給與)
一日ノ所要量 米 三百八斗二升(九俵半)

十月ノ所要量 廿九六斗四升(六俵)
米 六一四石五斗(二八六俵)
廿九六斗四升(六俵)

十月ノ主要食糧

支入總數 米 三二五〇俵

内訳 陸軍海軍施設部 六五〇俵

九州海軍航空隊(空水) 一五〇俵

拂出總數 米 三〇八俵

差引殘高 一八四二俵

但シ出欠一五〇俵。懐入手迄相當ノ期門ヲ要ス
現在手持米ヨリ軍部ニ供給スルハ約三〇俵アル
見込ナルヲ以テ向フ三〇日間ヲ看ヒ得ル見込ナリ

四 重要電報寫

東通ニ二四三八番電

發海參謀長宛九州空司令官

九州空司令官註ニ華條ハ特令ニ時機迄鹿屋ニテ駐駐部隊ト接衝ニ任セシメラル

右命ニ依リ

GB機密ニ二七一九番電

GB電令第一四三號聯合國軍進駐條件文ニ依ル鹿屋飛行場使用ニ関スル

飛行場勤務其他諸措置ハ海長官所定ニ依リ之ヲ準備スベシ

大海機密第一三一〇五番電

大海指第一三六號 昭和二十年八月二十二日 指示先省略

大海令第一三二二号ニ基キ左ノ通指示

一海長官ハ佐鎮長官ハ協力ヲ得テ別ニ定ムル處ニ依リ速ニ鹿屋基地ニ連絡

委員會ヲ設置シ進駐部隊指揮官ト折衝シ鹿屋基地ヲ治安維持ニ

任セシムベシ

二佐鎮長官ハ新要ノ海軍保安隊ヲ編成鹿屋基地ニ派遣連絡委員會ヲ

軍、委員長、指揮ヲ受ケシムベシ

三海長官ハ速ニ鹿屋基地ニ於ケル通信氣象關係ノ新要施設及委員整備ニ

四鹿屋ニ於ケル治安維持ニ関シ陸軍ト協議シ之ニ協力スベシ

機密ニ二三三〇番電 發海長官宛 GB長官通報次官 P 佐西部軍

二十二日〇〇〇〇以後一切ノ戰鬥行為停止ノ命ニ依リ之ヲ実行ノ徹底ヲ期

スル為當艦隊ハ當面措置トシテ一部保管員ヲ残置シ爾余ノ全員ニ對シテ

暇ヲ許可シタルヲ以テ目下當艦隊各基地ハ機能ヲ有シテラス鹿屋基地ハ

通信不如意ニシテ善処ス尚佐鎮駐ニ陸軍ハ協力ヲ得度

機密ニ二三二番電

發海參謀長宛軍務向長

鹿屋進駐ニ對スル中央派遣委員ハ可成速ニ鹿屋ニ派遣セラレ度